



連載

次代の農業を担う 23

栃木県農業大学校生のチャレンジ

祖父母の農地を継承していちごを栽培するぞ

私は幼い頃から祖父母の家が近かつたこともあり、よく遊びに行っていました。両親は会社勤めでしたが、祖父母の営む農業を見てきたことで、農業を身近に感じてきました。中学生になると祖父母の家の農業を継ぐ人がいないことを知り、祖父母が汗水流した農地を自分が引き継ぎ、農業をやりたいと思うようになりました。

那須拓陽高等学校では農業経営科に入学し、農業について学びました。祖父母の家は水稻専作経営をしていましたので、当時は私もそのまま専作経営をしようと考えていましたが、調べていくうちに今の



水田面積では厳しいことを知りました。水田を利用しても儲かる農作物はないか、限られた面積で採算性のよい農作物はないかと考えた末、いちご栽培にたどり着きました。いちごは水稻に比べ小面積で安定した利益を得ることが可能です。なにより栃木県が力を入れている品目であるため、新規で就農するにあたりふさわしい作物と考えました。

いちご農家になるため、高校卒業後は栃木県農業大学校に入学しました。実習ではいちごを専攻して新規就農するための栽培技術と経営について学んでいます。管理機やトラクターの運転など農業を経営するために、必要なさまざまな知識や技術を身につけることができました。今は新規就農するために栽培予定ほ場の確認や資金などの就農計画、卒業後予定の先進農家研修準備を、地元農業振興事務所の方に相談するなど就農に向けて取り組んでいます。

栽培開始直後の規模は、20ア

ル程度を考えていますが、数年後には規模拡大を図り、ハウス管理の自動化や作業の機械化等効率化を進め、地域の代表的ないちご農家と言われるような経営をしたいと考えています。

まだまだ就農するためにやらなければいけないことが多くあります。ですが、祖父母の思い入れのある農地で、最高にうまいと言われている品目であるため、新規で就農するにあたりふさわしい作物を作りを実現できるよう頑張ります。

(園芸経営学科 野菜専攻
室井 春輝)

